

福井県

大野市

「ほし・ひと・エコ」が同時に発展する地域を目指して



人口 31,286人 面積 872.4 km²

都市の特長

「天空の城 越前大野城」のふもとの市街地は、450年以上前の城下町の面影を強く残しており、北陸の小京都として知られている。



大野市

ONO CITY

日本一美しい
星空を守る

大野市の星空は、環境省の調査で日本一になるなど、高く評価されている。しかし、星空保護には家庭・事業所・施設などから出る光による「光害」の抑制と良好な大気環境の維持が必要である。また、市内観光が日帰り中心で観光消費額が少なく、星空を活用した滞在時間延長が望まれる。そのため、産学官民が一体となり光害対策、大気環境維持、星空観光推進に取り組んでいる。

01 屋外照明を光害対策型へ交換

「星空保護区」の認定対象地域である南六呂師区において、対象となる既設照明を詳細に調査し、一つ一つの照明が認定の基準に適合できるような計画を策定。南六呂師区の防犯灯や県有・市有施設の屋外照明を光害対策型の屋外照明に改修した。



星空のある上側に光が漏れない

02 星空を保護する普及啓発

市と連携している大学や市民団体により、市公民館や小学校での出前講座を通じた、星空保護の普及活動に取り組んでいる。また、市内の家庭・事業所・施設の照明を一齐に消す「ライトダウンイベント」を通して、星空の保護と省エネルギーの大切さを伝えている。



光害対策の重要性を説明しています

03 脱炭素・森林保全を通じた良好な大気環境の保全

市域の87%を占める森林が有する大気浄化機能を最大限発揮するため、森林資源の循環利用を推進。市内では、木質バイオマス発電が民間事業者により運営されており、間伐材が利用されている。また、市内児童がどんぐりを苗木まで育て、苗畑に植樹する活動のほか、保育園への木を使ったおもちゃの配布も行っている。



木質バイオマス発電規模は一般家庭15,000世帯分

04 「星空ハンモック」などの星空観光の推進

ハンモックに揺られながら星空を見る「星空ハンモック」や、車内天井に星空が浮かび上がる「星空観光バス」を活用した旅行ツアーなど、民間事業者主体の活動が行われており、支援をしている。宿泊客を増やすために宿泊環境の充実にも取り組んでいる。

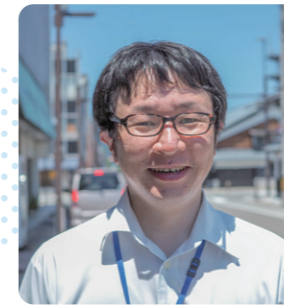


ハンモックに揺られながら星空観察

インタビュー

Interview

01 星空と人の共生による好循環を起こす



大野市 行政経営部 政策推進課 企画主査 小野田 陽さん

大野市のモデル事業では、「ほし・ひと・エコ推進事業」と題して、市民・団体・企業など多様な主体とまちづくりを進めています。光害対策など、星空保護の「暮らしぶり」が観光地としてのブランドを高め、地域経済活性化と星空保護への市民意識向上につながる好循環が期待されています。今後は、星空保護区認定を契機に、より多くの市民・事業者と連携し、星空と人の共生を踏まえた取組を推進していきます。

肉眼で天の川を見ることも!



02 星空を活かした観光で、大野の元気をデザイン

Column

カーボンニュートラル達成に向け、若年層を中心に啓発活動をしている。写真は、人力発電の乗り物に乗る「Eco遊園地」。



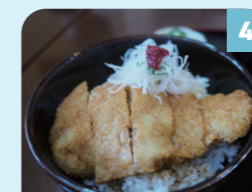
一般財団法人 越前おおの観光ビューロー 事務局長 木下 正朗さん

本法人は、「観光で、大野の元気をデザインする」をスローガンに観光誘客・物販による好循環を構築していきます。星空観光促進により観光来訪者の滞在時間の延長が図られ、観光客の宿泊・飲食・体験の機会を増やすことで観光収入の増大を目指します。将来的には、市街地と南六呂師エリア間の往復を、CO2排出量が車より少ないバスの運行で賄うなど、環境保全にも配慮した取組を検討します。

今後の展望

「星空の世界遺産」ともいわれ、ダークスカイ・インターナショナルが認定する「星空保護区」の「アーバン・ナйтスカイプレイス」部門に、南六呂師エリアが2023年8月にアジアで初めて認定を受けた。今後は新たなロゴを活用しながら星空保護区をPRし、星空の魅力を伝える。

アジア初認定!



- 1 満天の星空と天の川
- 2 城下町の街並みが残る
- 3 天空の城 越前大野城
- 4 絶品 醤油カツ丼
- 5 市内各所で見られる湧き水

各取組の詳細はこちら

取組 01・02



取組 03



取組 04

